

茶病害虫防除情報

【第 12 号】

令和 6 年 7 月 12 日

鹿児島県経済連・肥料農薬課

三・四番茶摘採後の病害虫防除対策

今年の梅雨入りは平年より 9 日遅い 6 月 8 日で、7 月上旬は梅雨の中休みもあり、猛暑日が続きました。梅雨明けは間もなくで、平年並みになりそうです。梅雨明け後は今年も全国的に記録的猛暑になりそうです。今年最後の三番茶の摘採は早場産地から進んできました。

これから病害虫の活動は最も盛んな時期になりますので発生状況に注意しましょう。三番茶を摘採した後発生する病害虫には**輪斑病・チャノトリヒメコバエ・チャノキイロアザミウマ・ハマキムシ類・カンザリワグニ・ヨモギエダシク・マダラカハラハムシ**などがあります。この時期の茶園の防除は、来年の一番茶の基になる秋芽の充実や樹勢維持のために大切です。

☆ 防除の考え方

「やぶきた」園の輪斑病防除は三番茶の摘採直後、更新園再生芽整枝直後に行います。

チャノトリヒメコバエ・チャノキイロアザミウマは梅雨明け後増加しますので、発生が多い園は摘採後から秋芽萌芽前までの間に補完的に防除し、秋芽に対する発生密度を低下させておきます。

ヨモギエダシクは発生状況を観察し、多い場合は出来るだけ若齢幼虫期に防除します。チャノカケシハムシ、チャハマキはハマキ天敵、ハマキコーN などによる防除を実施していない園では発生に注意し、若齢幼虫期に防除します。

輪斑病、チャノトリヒメコバエ、ハマキムシ類などの防除薬剤の一部には耐性菌発生や感受性低下がみられますので薬剤選択に注意します。なお、薬剤使用回数は三番茶摘採・整枝でセッパされ、三番茶摘採・整枝後～秋整枝までが一収穫期になりますので、薬剤選定に留意します。

☆ 輪斑病・・・並

今年の発生は、二番茶摘採後までは並発生で推移しました。間もなく梅雨明けになりますが、気温が高くなり、三番茶摘採時は俄雨もありますので、発生しやすくなると思われます。

本病は主に高温の雨天時や葉が濡れている状態で摘採や整枝を行うと、その切り口から感染し、発病しますが、降雨がなくても摘採・整枝時の傷の汁液でも感染しますので、伝染源病害の多い園などは注意が必要です。このため薬剤防除は摘採・整枝後できるだけ早く行うことがポイントで、摘採・整枝 3 日後までに散布します。摘採後すぐに防除が出来ない場合が多いので、摘採 1 週間後頃に 1 cm 位整枝して直ちに防除を行う方法も現実的です。この時期に輪斑病をしっかり防除することが、秋芽への新梢枯死症発生を少なくします。

☆ チャノトリヒメコバエ・・・多 チャノキイロアザミウマ・・・並

両害虫とも今年は梅雨前半の降雨日がやや少なく、梅雨の中休みもあつたため発生はやや多い状態で経過しています。梅雨が明けて、乾燥した天気が続くと発生はさらに多くなります。増殖が早く、秋芽の生育・充実が著しく阻害されることがあります。発生が多い傾向の園では

秋芽の萌芽前までに補完防除して密度低下を図ります。深刈り、浅刈りなどの更新園の再生芽は集中的に被害を受け、樹勢回復に著しく影響しますので、特に注意します。

☆ コクモンハマキ…多 チヤハマキ…多 チヤノボカ…やや多 ヨモキエダシヤク

最近発生が多くなり、毎年この時期から被害が増加します。この時期の発生はガラガラと不揃いになり、いずれも若齢幼虫期、巻葉初期、葉潜巻葉期に防除することがポイントです。

☆ カンザワハダニ マダラカサハラハムシ

最近、この時期あたりから発生増加がみられますので、発生初期に防除します。

表 三・四番茶摘採後および更新園の病害虫薬剤防除法 (太字剤は栽培暦採用)

対象病害虫	防除時期	使用薬剤・使用濃度	使用基準
輪斑病 (基幹防除) (最終摘採・整枝直後) (更新園再生芽整枝後) (台風後緊急防除)	摘採・整枝後 台風後 (3日後迄)	カスミンボルトー 500～1000倍	14日前 2回
		カッパーシン水和剤 500～1000倍	14日前 2回
		アミスター 20フロアブル 2000倍	14日前 3回
		テブロスフロアブル 1000～2000倍	14日前 2回
		ニマイパー水和剤 1000～1500倍	14日前 1回
黒葉腐病 (発生の恐れのある園)	初発生確認後	ダニコール 1000 700倍	10日前 1回
		ナリア WDG 2000倍	7日前 2回
チヤノミドリヒメヨコバイ チヤノキイロアザミウマ	摘採後～秋芽萌芽前 更新園再生芽生育期	コルト顆粒水和剤 2000～3000倍	7日前 2回
		ハチハチ乳剤 1000～1500倍	14日前 1回
		ガンバ水和剤 1000～1500倍	14日前 1回
		コテツフロアブル 2000倍	7日前 2回
		グレースシア乳剤 2000倍	14日前 1回
マダラカサハラハムシ	秋芽萌芽直前	コテツフロアブル 2000倍	7日前 2回
		グレースシア乳剤 2000倍	14日前 1回
		エクシレル SE 2000倍	7日前 1回
		テッパン液剤 1000倍	3日前 1回
コクモンハマキ・チヤハマキ ヨモキエダシヤク (チヤノボカ)	摘採・整枝後 若齢幼虫期 (卵～潜葉幼虫期)	ファルコンフロアブル 4000～8000倍	7日前 2回
		スピノエスフロアブル 2000～4000倍	7日前 2回
		ディアナ SC 2500～5000倍	前日 1回
		アフーム乳剤 1000～2000倍	7日前 1回
		グレースシア乳剤 2000倍	14日前 1回
		カンザワハダニ	発生初期
		ダニサラハフロアブル 1000～2000倍	7日前 2回
		アグリメック 1000倍	7日前 1回

☆備考 ① ダニコール 1000 は秋芽生育期に使用予定の場合には最終摘採・整枝後の使用は出来ない。

② 薬剤選定はこれまでの使用状況、秋芽生育期使用予定や耐性菌、抵抗性問題を考慮して行う。

三番茶摘採後に発生する病害虫



摘採（整枝）切口に発病した輪斑病



輪斑病菌 分生子



チャノミドリヒメコハイ 成虫



幼虫



被害芽



チャノキアザミヤ 幼虫

蛹



被害芽